

LESSON 34

ご提示いただいたヒヤリハット台帳（2026年1月7日～2026年7月21日の記録）を分析し、まとめました。

1. 全体概要

- ・ 総報告件数: 41件
- ・ 対象期間: 2026年1月7日から7月21日まで
- ・ 負傷・体調不良の発生: 全体のうち3件で、軽度の負傷や体調不良（腰の痛み、換気不足による気分不快、軽度熱中症）が実際に発生しています。

2. 根本原因の傾向 ヒヤリハットの原因として最も顕著なのは「連絡不足」と「確認不足」です。

- ・ 連絡不足（14件）: 合図の不徹底、他チームとの連携や情報共有の不足、ルールの周知不足などが原因で多く発生しています。
- ・ 確認不足（12件）: 足場のピンやボルトの確認漏れ、重機後退時の後方確認の怠りなど、作業前・作業中の必須確認ステップを飛ばしたことによるものが目立ちます。
- ・ その他: 手順違反（6件）、設備不備（4件）、教育不足（3件）、環境要因（2件）と続いています。

3. 重大なインシデント（重大度3）最も重大度が高い「レベル3」の報告は5件ありました。これらは一歩間違えば大事故（墜落、重機との接触、感電など）に直結する危険な事例です。

- ・ 足場板の固定ピン未挿入による墜落の危険
- ・ クレーン旋回時に誘導員が定位置を離れたことによる接触寸前の事態
- ・ 型枠支保工のボルトが規定数に満たない状態でコンクリート打設開始
- ・ 強風予報時の足場養生ネット増設指示の伝達漏れ
- ・ 電気配線時のアース接続忘れのままの試通電

4. 対策実施状況における課題

- ・ 大部分の事案（41件中36件）は「対策済み」または「対策中」であり、手順の再徹底や教育などが進められています。
- ・ 一方で、「未対策」のまま残っている事案が5件あります。注目すべき点として、未対策5件のうち4件が「型枠工事（報告者:WKR-22）」に関する事案（立入禁止表示の復旧忘れ、トルク確認漏れ、他社作業員の進入、剥離剤散布量超過）です。特定のチームにおける安全管理体制や、対策実行のスピードに課題がある可能性が伺えます。

5. 季節や環境による要因 時期が進むにつれて、狭い場所での換気不足による気分不快 や、夏の熱中症による体調不良 といった環境・季節性のインシデントも報告されるようになっていきます。

この分析結果をもとに、今後の安全対策に向けた詳細なレポートを作成しましょうか？